

3-5 近江八景と琵琶湖八景

滋賀県を代表する風景として、近江八景と琵琶湖八景があります。特に近江八景は、全国を代表する風景鑑賞の原型にもなっています。ともに風景は、琵琶湖と密接な関係を有しています。

1. 近江八景

(1) 中国の瀟湘八景

琵琶湖を中心とした美しい風景は、古代から多くの人々を魅了してきました。その証として風景が、詩歌・物語・紀行文・絵巻などにたびたび登場します。

日本を代表する風景として「近江八景」があります。室町時代に入り中国の水墨画が脚光をあび、そのなかで中国の洞庭湖周辺の景勝「瀟湘八景」を模して、近江八景が選定されました。

(2) 16世紀末ごろ成立

近江八景がいつ選定されたかは明確ではありませんが、およそ16世紀末江戸時代初頭、歌・画・書に精通した公家近衛信尹(1564～1614)が選定したと考えられます。

信尹が選んだ近江八景の画には、それぞれ和歌を添えています。ここでは名称だけをあげると次のとおりです。

石山秋月 瀬田夕照 矢橋帰帆 粟津晴嵐
三井晩鐘 唐崎夜雨 堅田落雁 比良暮雪

信尹は著名な数ある名勝の中から、当時の有名な瀟湘八景の景勝地と取り合わせて、近江八景を選定したのです。瀟湘八景に模したと言われているものの、これほど近江の名所の形態とが見事に合致したものはないと言えます。



図3-5-1 歌川広重 近江八景【魚樂版】のうち瀬田夕照 (大津市歴史博物館蔵)

(3) 浮世絵版画によって全国に流布

その後近江八景は、松尾芭蕉の俳句をはじめ襖絵・屏風・名所図会・名所記などに数多く登場します。中でも江戸時代中期以降の浮世絵師歌川(安藤)広重による大判錦絵「近江八景之内」によって全国に知られるようになりました。まさに近江八景が、浮世絵版画の格好の画題となったことを示しています。そして、近江八景にちなんで江戸時代末までに全国112箇所では八景が誕生しています。

2. 琵琶湖八景

湖は数々の名勝を形成していますが、近江八景の選定地がどちらかといえば南部に集中しています。ちょうど1950(昭和25)年、琵琶湖全域と伊吹山・比良山地などの山々が日本初の国立公園(琵琶湖国立公園)に指定されました。これを機会に、当時県民の公募で「琵琶湖八景」が選定されました。

夕陽 瀬田・石山の清流 煙雨 比叡の樹林
涼風 雄松崎の白汀 暁霧 海津大崎の岩礁
新雪 賤ヶ岳の大観 月明 彦根城の古城
春色 安土・八幡の水郷 深緑 竹生島の沈影

いずれも滋賀県のすぐれた景観が表現されています。琵琶湖八景のうち五景が琵琶湖と密接な関係を有し、琵琶湖の存在が風景の基礎になっていることがわかります。しかし、琵琶湖八景が近江八景に比較して、ほかの資料に登場する機会が少ないために、認知度において近江八景に比べて低いことが惜しまれます。



写真3-5-1 琵琶湖八景 竹生島の沈影(永江弘之撮影)

成安造形大学附属近江学研究所 木村 至宏